

## 1. SDGsとESDの関係

SDGsもESDも、「持続可能な世界を目指す国連主導の取り組み」という点で全く同じである。その違いは、SDGsは、2030年までにより良い世界を実現するための「目標」やめあてのことであり、ESDは持続可能な社会の創り手を育む「教育」である。

SDGsを進めようとする、どうしてもキャンペーンやイベント、コンクールなど形式的な取り組みや数値的な成果を求めたものや、その場限りの取り組みになりがちである。世界の課題と向き合い、それらを自分自身のこととして捉え、そのことについて広い視野から学び続け、考え、判断し、自らの行動の変容だけでなく、表現し発信することを通して社会のより良い変容を希求し続ける「持続可能な社会の創り手の育成」が重要なのである。

このことは、2019年の国際連合総会でも「ESD for 2030」が承認され、SDGs推進には「ESDによる質の高い教育」の欠かせないことが明確にされている。

## 2. ESDは学習指導要領の基本理念である

我が国では、2017年に公示された学習指導要領の前文において、ESDの推進を基本理念として示し、各校が教育課程を編成する際に、

- ①時代遅れな学校教育目標を見直す
- ②教科等横断的視点で教育課程を編成し、教育活動の質の向上を図る
- ③主体的・対話的で深い学びに向けた授業の改善を通して、子どもたちの問題解決に向けた資質・能力を育む

ように示し、学校教育の改革を進めるように明示している。教科書や教師から与えられる「知」を身につけさせるだけの教育でいいのか、各校が教育目標自体の見直しを図る。教科等横断的な教育

# 「ESD 持続可能な開発のための教育」を推進するために

ESD・SDGs推進研究室 手島 利夫



課程を編成し、各教科・領域で学んだことを関連づけ、総合的な学習（探究）の時間を活用してストーリーのある学びを創る。主体的・対話的で深い学びの実現を図り、思考力・判断力・表現力、実践力と学びに向かう力や人間性をも高める。これらは、「ESD・持続可能な社会の創り手育成」への道標なのである。

## 3. 自校の教育課程をチェックする

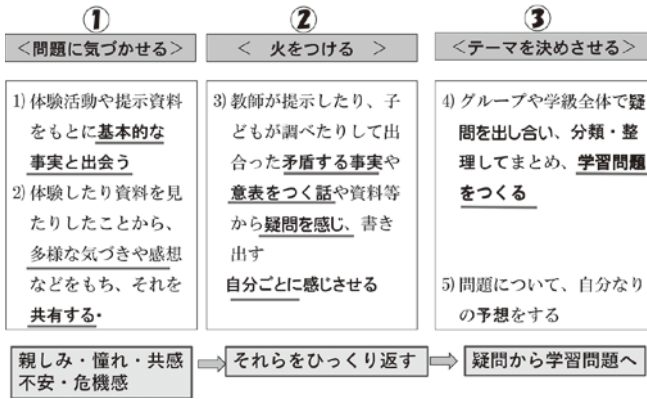
しかし2020年度、小学校から学習指導要領の完全実施が始まると同時に新型コロナウイルスによるパンデミックが始まり、世界全体が、そして教育全体の大混乱が続く中で、ESDの推進という基本理念の理解も実践も放置され、ほとんどの自治体や学校で、十分には取り組めないのが現状である。自校の教育課程に学習指導要領のキーワードがきちんと位置付けられているかどうか、以下のチェックリストを使って校長も含めた全職員で確認と問題の共有をし、令和6年度の教育課程を編成していただきたい。なぜなら、これらのキーワードはESD推進の重要な視点でもあるからだ。

## 4. 主体的・対話的な学習を創る

学校の教師も含めて、日本中の大人の中で主体的な学び、問題解決的な学び

記載の有無	学習指導要領の前文	学習指導要領の総則							
		教育理念	教育課程編成	教育課程実施					
				主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善					
	持続可能な社会の創り手の育成など教育目標に直結するキーワード	教科等横断的なカリキュラム・マネジメントによる教育活動の質の向上	学び方		資質・能力				
			深い学び	探究的な学習過程	知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性		
	持続可能な社会の創り手	カリキュラム・マネジメント	主体的	探究的な学習過程	知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性		
	生きる力	教科等横断的な指導	対話的	探究的な学習過程	知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性		
	社会に関わられた教育課程	総合的な学習（探究）の時間の充実	深い学び	探究的な学習過程	知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性		
		言語・情報・問題発見・解決等の能力	主体的	探究的な学習過程	知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性		
		言語・情報・問題発見・解決等の能力	対話的	探究的な学習過程	知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性		
		総合的な学習（探究）の時間の充実	深い学び	探究的な学習過程	知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性		
		言語・情報・問題発見・解決等の能力	主体的	探究的な学習過程	知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性		
		言語・情報・問題発見・解決等の能力	対話的	探究的な学習過程	知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性		
		総合的な学習（探究）の時間の充実	深い学び	探究的な学習過程	知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性		
		言語・情報・問題発見・解決等の能力	主体的	探究的な学習過程	知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性		

『こどもの学びに火をつける』際の3つのステップ



「どうしてもはつきりさせたい」学習問題が明確になるのである。

このようにして学習したい問題が共有されていけば、その解決についての対話も自然に生まれるのである。また、自分自身で重要と感じる問題であれば、その解決に向かう取り組み方にも変化が起こる

を経験したことがあるという人は非常に少ない。だから「調べ学習」をさせて、自分たちで調べさせ、まとめさせ、発表させればそれが主体的な学習だと思いがちなのである。しかし、教師が与えたり教科書等に示されたりしている問題について調べさせられても、それは「他人から与えられた問題に取り組んでいるだけ」で、主体的な学びとは言えない。子どもたちは教師が望んでいる姿を演じ、良い評価を得ようと努力しているに過ぎない。そのような「やらされている学び」の中から、世界の問題に気づき解決に向かって学び続けるような持続可能な社会の創り手が育つはずもない。

重要なのは、単元の導入時に「子どもの学ぶ心に火をつける」ことである。それには導入の場面に次の資料のような3つのステップを用意することが必要である。特に②では①で感じていた親しみやあこがれ、子どものもっている常識などをひっくり返すような意表を突く事実に出合わせることで「えっっ！」というような驚きを与え、そこから疑問を感じさせるように工夫するのである。そしてみんなの感じた驚きや疑問を③で整理する中から「どうしてもはつきりさせたい」学習問題が明確になるのである。

〈連載テーマ①〉

# 「Society5.0時代の学校教育」

のではないだろうか。また、学びを通じて思考・判断や行動に変容が見られた時、それが「深い学び」なのである。評価では、作品の出来栄えや発表の見事さだけでなく、変容やその契機、あるいは学びの方向性を捉えることが大切である。

## 5. ESDカレンダーで教科等横断的な学びを構想する

普段の授業の中にも実験や観察・見学や発表など体験的な活動や探究的な学びを取り入れたいが、指導内容の量や時間数の都合でできないことが多い。しかし、教科の学習と連動して総合的な学習の時間（探究）の単元を設定することで、一層深まりのある学びの場を提供することが可能になる。

ここを示したESDカレンダーでは、国語科のSDGsに関する内容から出発し、総合の「未来にはばたけ！」に向かって社会や図工の学び等と関連づけながら発展させ、特活の「八名川SDGsまつり」で全校児童や保護者、地域等に向けて未来に向けてはばたく夢や希望や現実の課題等を語るものである。このような単元構成をするのがカリキュラムマネジメントの要点でもある。ESDを進めようとするならば、学習指導要領の理念を実現することである。

第6学年「未来にはばたけ」を中心としたESDカレンダー

江東区立八名川小学校

教科領域	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語					① SDGsの視点から未来について、自分の考えをもつ					
算数										
理科										
社会					② 競争中の生活や人々の願いを知る					
総合										
英語										
特活										
道徳										
音楽										
図工										
体育										
家庭										

環境的教育 多文化理解 人権・命の教育 学習スキル